

---

# オラクル？おらくる！？

千晴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

オラクル？おらくる！？

### 【Nコード】

N0551Z

### 【作者名】

千晴

### 【あらすじ】

神様の神託を西洋じゃ「オラクル」っていうらしい。

神託をうけた人間は祝福されし贈り物「ギフト」を渡され

んで、神様のオラクルを達成させなければならぬのであった。

この物語は、サラリーマンがギフトによって手に入れた「魔法」をつかって

「オラクル」を達成させる為に東奔西走する物語であ……るわきやないだろ！

クリスマスしか縁のない神様とやらの気紛れを、残業バリバリ、ブラック二歩手前の

中小企業のサラリーマンがどうやって叶えるっていうんだ。

そういうのは、中二病の暇な学生にでもやらせて……いる。

あ、もういるんですか。

美少女で、財閥の跡取りで……

しかも、組織があるとか。聞いてないです！（主にボクの話をも）

こんなのが「ギフト（祝福された贈り物）」だなんて……

これは、呪いじゃないか—————！

あ、はい。お世話になっております。はい、その件は今日中にFAXで……

はい。もちろんです。はい。では失礼し

という二束のワラジ現代ファンタジーの予定です。

## 第一話　なんでこうなったのか序章という名の愚痴

突然だが、ボクは「魔法使い」である。

いや、別に30歳まで童貞であったわけでもなく、父親が英雄の子供先生でもないのだが、まあ「魔法使い」なのである。

正確には、サラリーマン兼魔法使い・・・いや、収入を考えれば魔法使い兼サラリーマンかもしれませんかね。なにせ、税金をかけようにも申請できぬ収入なわけで。

国税局の方々申し訳ない。

納税は国民の義務だというのに。

いや、しかし、しっかりとサラリーマンとしては取られているのでご勘弁願いたい。

だいたい、好きでやっているわけじゃない。これは生きる為の義務というか使命というか、ともかく自由意志ではなかったのだ。今でも、そうだ。

そう、「魔法使い」というのはボクこと富山とよしま 裕也ゆいにたいする

いわゆる、ひとりの

「呪い（祝福されし贈り物）」だ。

.....オラクル！おらくる！？.....

第一話　なんでこうなったのか序章という名の愚痴

またまた突然だけでも、オラクルって単語がある。Wikiでしらべると企業名やらなんやらでてくるが、キリスト教の意味合いとしてのオラクルって言葉。

「神託」・・・そう、神様のお告げ。ってか好き勝手な御託だ。

ある時は、マリア像に血の涙を流させてみたり、ある時は、預言者に語りかけたり、ボクの時には、おでんの屋台で酔っ払ってたおっさんの寝言だったわけだけでも・・・。

ありゃ忘れもしない10ヶ月前の寒い夜のことだった。

めずらしく残業が早く片付いたんで、たまには運動がてら最寄り駅までバスを使わず歩いてみようと思いい立ち、

普段は歩かぬ会社から駅までの間を進んでたのだが。

もう、すぐに後悔したね。

なにせ、寒い。12月の寒空を舐めていました。すいません。

このまま会社に戻るか。

いや、また戻って残業してる部署の人間にあうのもなー。

バス待つっても、同じくらいだし歩け歩け。

と、首をすくめ足早に歩く。

いつもなら、バスの中で下を向いて携帯をイジってる道中、ふと空を見上げたりすると街の灯りで満天とまではいかないまでも、

結構、綺麗に見える星空。雲もなく月も今日は満月ではなく細い弧を描くだけだった。

「へえ、街中でも結構見えるもんだな。知らなかったや。」

白い息を吐きながら独り言を呟いてみる。

寒さが寂しさを思わせたか、独り言が普段より余計に、悲しい。家に帰っても誰も居ないし、なんか1人暮らししてから独り言増えたな。

「・・・彼女欲しい(ボソツ)」

余計人恋しくなってきたボクは、駅まであと少しというところで、赤いちようちんの光りを見つけた。

「・・・こんなとこにおでんの屋台あったっけかな?」

ちよつとだけ、首をかしげたけども、この寒さと人恋しさで、普段なら入らないような屋台に足を向けた。

「いらっしやい。今日は冷えますね。なんにしましょ」

暖簾をくぐりベンチに腰掛けると、七十過ぎのお爺さんが割烹着を着て出迎えてくれた。

ふと屋台を見やるとボクの対角には、うつぶしたバーコードヘアーの中年のおっさんが、居たのであった。

そう、これが後に

「うええええ。きもちわるっ。オヤジもう一杯」

・・・ボクの人生を大きく変える「大いなる存在 - 神様 - 」との出会いだっただのであります。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0551z/>

---

オラクル?おらくる!?

2011年12月2日00時51分発行